

人馬一体

馬による木材搬出「地駄曳き」
を続けて57年。菊池盛治さん
の仕事を追った。



盛治さんとサカリ

「なぜ馬で運ぶんですか」「馬は何本の木を運べるんですか」
11月12日、綾織小4、5年生の児童たちは、来年度完成する自分たちの校舎の木材がどこから来るのか調べるため、菊池盛治さん(73)と土淵町とサカリ(10歳)の「地駄曳き」を見学した。

「こういう場所さ機械は入れねえべ。馬の方がいい場所つてあんだよ」。
山で伐採した木材を馬で引き出す「地駄曳き」。間伐をした森林では大型機械が入りにくく、伐採した木も散在しているため、遠野の山地では今も馬が活躍している。

地駄曳きの道具をサカリに付け終わると、さっそうと森へ分け入る盛治さん。一度立ち止まり森全体を見回したかと思うと、さらに奥へと進んでいく。

伐採された丸太は森の中に散在し、枝や木が覆いかぶさっているため、チェーンソーを使って刈り払い、トビで引き出す。意外と重労働。この間、サカリはじつと盛治さんの作業を見つめている。集材に最適なルートを確認、丸太にチンチョと呼ばれる金具を打ち込んだら、いよいよサカリの出番だ。盛治さんの掛け声で、力強く引き出し、100メートルほど先の道路脇まで運んだ。一人が通れるくらいの道。時には、石や枝に木材が引っ掛かることもある。

「力任せにやればいって飲んでねえ。馬の気持ち分かかってやんねばなんねえんだ」とほほ笑み、集材した木材を優しくほどくと、再び山へ入っていった。



1 邪魔な木や枝をチェーンソーなどを使い取り払う
2 運び出す木材にチンチョと呼ばれる金具を打ち込む
3 木が生い茂る道なき道を力強く進むサカリ

綾織小4.5年児童が地駄曳きを見学



多田知弘君(4年)

馬が木を運ぶのを初めて見ました。たくさん木を一度に運んでいてすごく力持ちでした。



小笠原瑛恵さん(4年)

思っていたより馬は力強くて、早かったです。しかも、とても利口なんだと思いました。